

2023年9月3日 説教「あなたの宝のあるところに」

ルカの福音書 12章 22～34節

先週はルカの福音書 12章から、愚かな金持ちのたとえ話から学びました。今朝はその主題に続く主イエス・キリストの教えです。

1. 何を食べ、何を着るか心配するな (22～26節)

①いのちとからだの心配 (22)「それから弟子たちに言われた。『だから、わたしはあなたがたに言います。いのちのことで何を食べようかと心配したり、からだのことで何を着ようかと心配したりするのはやめなさい。』」

マタイの福音書 6章では山上の説教のなかにあり群衆に向けられたメッセージですが、ここでは弟子たちに語られています。いのち(プシュケー)は肉体を伴ういのちのことです。イエスはこの体を伴ういのちのことについて、まずは食の心配はするなと言われます。また、身体の装いについても、色々心配するなと述べられます。

②鳥のことを考えよ (23～24)「いのちは食べ物よりたいせつであり、からだは着物よりもたいせつだからです。鳥のことを考えてみなさい。蒔きもせず、刈り入れもせず、納屋も倉もありません。けれども、神が彼らを養ってくださいます。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれたものです。」

イエスはいのち(プシュケー)と食べ物、からだと着物を比較されて、いのちやからだの方がより大切であると述べられた後に、鳥を例にとられます。種蒔き、収穫、収蔵をしない鳥が養われているのだから、鳥よりもすぐれた人々を神は必ず養ってくださるといわれるのです。

③心配する意味は (25～26)「あなたがたのうちのだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。こんな小さなことさえできないで、なぜほかのことまで心配するのですか。」
私たちが心配をしても、自分のいのち(ヘーリキアン/寿命)を伸ばすことができるかという、それはできないと主は言われます。

2. あなたがたの必要を知っている主 (27～30)

①ゆりの花のことを (27)「ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして育つのか。紡ぎもせず、織りもしないのです。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。」

ゆりはイスラエルの地に咲く野の花でした。紡ぎも織りもしないのに、ゆりはきれいに咲いています。その美しさは、栄華を極めたソロモン王が着た王服の豪華さにも勝っていると、主イエスは言われるのです。

②炉に投げ込まれる草さえ (28)「しかし、きょう野にあって、あすは炉に投げ込まれる草をさえ、神はこのように装ってくださるのです。ましてあなたがたには、どんなによくしてくださることでしょう。ああ、信仰の薄い人たち。」



田中忠雄



神にとっては、翌日炉に投げ込まれる草も大事であり、野に咲く花も同様で、美しく装ってくださるのです。まして、人間たちの装いについても神はご配慮されないはずはないのです。「ああ、信仰の薄い人たち」というお言葉は、神を忘れ人間的考えに陥っている者たちへの叱咤です。

- ③何を食べたらよいかと気をもまない (29-30)「何を食べたらよいか、何を飲んだらよいか、と捜し求めることはやめ、気をもむことをやめなさい。これらはみな、この世の異邦人たちが切に求めているものです。しかし、あなたがたの父は、それがあなたがたにも必要であることを知っておられます。」

飲食をすることは欠かせませんが、神を知る者はそれらに囚われてしまっ
てはならないと言われるのです。もし、その人が神を知らない異邦人である
ならば、飲食のことに心を奪われてしまうかもしれない。しかし、神を知る者
は、必要を満たしてくださる神を信じて生きるのだと教えられます。

3. 古くならない財布を作れ (31~34 節)

- ①神の国を求めよ (31)「何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、これらの物は、それに加えて与えられます。」

まず求めるべきは神の国であると、主イエスは言われます。衣食住をはじめとした地上のことに振り回されずに、御国をあこがれ、その恵みを求めて行くならば、結果として、地上の必要も与えられていくというのが、信仰の大原則だということです。

- ②恐れるな (32)「小さな群れよ。恐れることはない。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。」

イエス・キリストが宣教されていた時代において、クリスチャンはまだ少数派でした。小さな群れでした。その群れに主は、「恐れることはない」と励まし、父なる神が喜んで御国を与えてくださることを約束してくださっています。御国の恵みを地上においても与えてくださると言っているのです。

- ③宝を天に (33-34)「持ち物売って、施しをしなさい。自分のために、古くならない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこには、盗人も近寄らず、しみもいためることはありません。あなたがたの宝があるところに、あなたがたの心もあるからです。」

この部分は、イエス・キリストによる話の適用としての勧めです。「持ち物売って施しをせよ」というお言葉は、金持ちの青年に語られたものですし(マタイ 19:21)、「朽ちることのない宝を天に積み上げなさい」以下は山上の説教で主が教えられたことでもあります(マタイ 6:19-21)。

《結論》

今朝も三つのポイントで結論に導かれていきたいと思えます。

第一、5月7日に講壇復帰し、詩篇90篇から学びました。その時に、「自分の日を正しく数える」ことに関して、マタイ6章末尾の視点から学びました。今朝の聖書箇所は並行記事です。「空の鳥を見なさい。」「野の花を見なさい。」という促しは、自然を通して与えられている主の恵みを確認しよう

というメッセージを受けました。ルカでは鳥(からす)とゆりの花となつていますが、いずれにせよ神は空の鳥や、隅っこに咲く花、翌日に炉に投げ込まれてしまう草のことも忘れていてくださるのです。ましてや私たち一人一人を大切に覚えて下さる主であることを確認しました。野の花や空の鳥を見たなら、「この者をも覚えてくださり感謝します。」と即座に祈りましょう。

第二に、32節にある「小さな群れよ。恐れることはない」とのくだりです。来主日、私たち教会は会堂16周年記念礼拝をおささげします。これまでの守りを感謝します。とはいえ「小さな群れ」であることは変わりません。教会は大小が問題なのではなく、その内実こそが大切であることは確かです。ただ、ここでは主御自身が、教会が形成される前の、主に従うクリスチャンの集まりに対して、「小さな群れよ」と呼びかけておられます。ならば、私たちの群れにも語りかけてくださっていると考えると良いのではないのでしょうか。主イエスは小さいがゆえに、怖気づいたり、悲観的になつたりしないようにと、戒めておられます。28節には「ああ、信仰の薄い人たち」と言われていますが、私たちは不信仰に陥ってはいけません。私たちの群れも、ここで仕切り直して、この教会にも「御国をお与えくださる」(32)ことを信じていきたいのです。恵みの交わりが備えられ、天来の出来事が起こされていくことを期待し、心を合わせて、祈っていこうではありませんか。

第三は、34節の「あなたがたの宝があるところに、あなたがたの心もあるからです。」とある点です。あなたが地上の財を蓄え、それを維持することにのみ安心を見いだしているとするならば、あなたの心はこの世の魅力にひかれていと言えましょう。逆に、あなたが地上の財を蓄えていたとしても、地上の財を主にゆだね、主のために用いることに心を開いているならば、あなたの心は御国の魅力にひかれ、御国につながっているといえます。

33節にはおもしろい表現が使われています。「古くならない財布を作り」とあるところ。天に宝を積む人の財布は古くならないのです。そのような財布は見えないかもしれませんが、価値があります。その人は地上の財でその財布を満たそうとは思っていないのです。むしろ、天の財をその財布の中に入れようとしているのです。ここでは「持ち物売って、施しをする」人は、朽ちることのない宝を天に積みあげています。盗人も盗みを働くことができません。虫食いに食い荒らされることがありません。心が天に向いている人の財布からは、何も盗むことができないのです。

それでは、主を第一にし、この世の財に囚われていない人の、この世の必要はどうなりますか。「あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、これらの物は、それに加えて与えられます」(31)とある通り、必要は満たされるのです。私たちの地上での生活を主に委ねていきましょう。主に自らをお献げし、あなたの全生活を主に任せていきましょう。その時に、主はあなたの経済生活を祝福して下さいます。

お一人お一人が、世の生き方から解き放たれて、主の恵みにあずかっていくことができますように。